

平成24年道路橋示方書の改定内容概要

2012/3/9

道路橋示方書	章節	項目(一部略記)	改定内容概要
II 鋼橋編	3.2.1	構造用鋼材の許容応力度	溶接箱断面部材を対象とした局部座屈を考慮しない許容軸方向圧縮応力度を追加
	3.2.3 (7.3)	溶接部及び接合用鋼材の許容応力度	接触面に無機ジンクリッチを塗布する場合、 ・すべり係数の見直しに伴う高力ボルトの許容力の変更 ・摩擦接合用高力ボルトの許容力に乗じる低減係数
	4.3	軸方向力と曲げモーメントを受ける部材	付加曲げモーメントの影響を考慮するための係数
III コンクリート橋編	3.3	鉄筋の許容応力度	SR235,SD295の削除とSD390,SD490の追加
	11.3	桁と床版の接合	設計荷重時の組合せについて接合面のせん断応力度が許容応力度以下となることを照査 鉄筋のせん断応力度が接合面のせん断応力度以下となることを照査
V 耐震設計編	4.3	レベル2地震動	タイプ I 地震動の標準加速度スペクトル
	4.4	地域別補正係数	地域補正別係数がタイプ毎に設定
	6.2.3	固有周期の算定方法	レベル1地震動における可動支承に作用する摩擦の影響
	6.4.3	設計水平震度	タイプ I 設計水平震度の標準値(Khc0)算出条件
			タイプ I 地盤面における設計水平震度の標準値(Khg0)
			タイプ I 設計水平震度の標準値(Khc0)の値、しきい値
	7.2	動的解析に用いる地震動	入力地震動の振幅の正負についての記述が追記 タイプ I 標準地震動
	7.3.2	橋及び部材のモデル化	部材の等価減衰定数の標準値
	7.4	耐震性能の照査	塑性ヒンジをモデル化しない場合、塑性ヒンジ長区間内要素の平均により照査
	9.3	免震橋の耐震性能の照査	免震橋の許容塑性率のパラメータ RC橋脚は耐震性能2に対して照査
	10.2	単柱式RC橋脚の破壊形態の判定ならびに保有耐力及び許容塑性率並びに動的解析に用いる非線形履歴モデル	許容変位の定義が変更されたため、許容塑性率の算出方法 動的照査におけるRC橋脚の曲げモーメント-曲率関係 許容曲率の算出方法
	10.3	単柱式RC橋脚の水平耐力及び水平変位の算出	塑性ヒンジ長の算出式
	10.4	コンクリート及び鉄筋の応力度-ひずみ曲線及び許容ひずみ	コンクリートの限界圧縮ひずみ(ϵ_{cc1})が設定
			軸方向鉄筋の許容引張ひずみ(ϵ_{st2} , ϵ_{st3})が設定
	10.6	RCラーメン橋脚の保有耐力及び許容塑性率	10.2(3)により許容塑性率の算出方法
	10.7	上部構造等の死荷重による偏心モーメントが作用するRC橋脚	許容塑性率の算出方法
	11.2	動的照査法による照査	コンクリートを充填した鋼製橋脚の r , CR
	11.3	鋼製橋脚の非線形履歴モデルと降伏変位及び水平耐力	コンクリートを充填しない矩形断面の鋼製脚の履歴モデル
	11.4	鋼材及び鋼製橋脚に充填されるコンクリートの応力度-ひずみ曲線及び許容ひずみ	鋼材の許容ひずみの算出式、構造細目
SM570以上の高張力鋼の細目が追加			
11.6	アンカー部の照査	アンカー部の耐力算出方法として杭方式が除外	
14.3.1	コンクリート上部構造耐力と許容変形量	上部構造の許容曲率としてPC鋼材が配置されていない場合の条件	
15.2	支承部の基本条件	積層ゴムの許容ひずみ	